

令和7年4月～令和7年9月 半年間の主な活動・参加行事

- 4月 森岡自治区総会、石ヶ瀬コミ総会、入学式(石ヶ瀬小、大府西中)、石ヶ瀬自治区総会、大府長寿会、つつじまつり、大府ばやし小唄保存会総会
- 5月 市議会5月臨時会、親和クラブ総会、境川猿渡川水系河川改修促進同盟会、大府商工会議所女性会、ミューぷらんおおぶ総会、大府市身体障がい福祉協会、大府市学童保育連絡協議会、石ヶ瀬自治区議会報告会、東部知多衛生組合議会、森岡支部防災総点検、大府市国際交流協会、文協まつり
- 6月 大府市消防操法大会、市議会6月定例会、まちづくりシンポジウム、健康交流拠点施設竣工式、石ヶ瀬アダプト、自民党愛知県連大会、アンナ・ワン氏基調講演、こどもふるさと検定、商工会議所意見交換会
- 7月 親和クラブ行政視察、韓国野球交流会、都市計画審議会、自民党大府市支部総会、瀬戸大府東海線整備促進同盟会、石ヶ瀬夏まつり、知多五市議長会、図書館こどもまつり、知多北部議員研修会、共和病院盆踊り
- 8月 愛知県消防操法大会、大府夏祭り、情報セキュリティ研修、教育懇談会、自民党7区議員連絡会、戦争を語り継ぐ会、近崎夏まつり、東部知多衛生組合議会、全国市議会議長会(札幌)、高橋養鶏賞式典、石ヶ瀬地区防災訓練
- 9月 市議会9月定例会、大府市制55周年式典、防災月見避難所訓練、石ヶ瀬アダプト、福祉健康フェア



私は本年5月の市議会臨時会にて、副議長を拝命いたしました。あまり表に出る機会はないのではと思われがちですが、議長は多忙であり、公務が重なることも多々あります。また、いつでも交代できる態勢でいなければならぬという緊張感があります。副議長の任期は2年です。円滑な議会運営のためにしっかりと職責を果たしてまいりたいと思います。

さてこの度、副議長として初の県外公務「全国市議会議長会研究フォーラム(札幌市)」に早川高光議長とともに参加してきました。研究テーマは「議員の成り手不足問題」です。今の大府市ではさして問題があるわけではありませんが、開かれた議会、市民の政治参加という視点で、全国自治体の取組事例を興味深く拝聴いたしました。また、情報交換会では、様々な自治体の議長さんと地方議会の課題を共有することもできました。

副議長として初の県外公務 全国市議会議長会 研究フォーラム出席

全国市議会議長会

ずっと大府
もっと大府

大府市議会議員
ふじもと宗久
政治活動新聞

令和7年秋号



我々親和クラブは、9月議会が始まるタイミングで岡村大府市長に対して、令和8年度の予算要望書を提出いたしました。この要望書は、市全般にわたる福祉、教育、文化・スポーツ、協働、防災、インフラ等の課題解決のための提言と、各議員に寄せられた支援者等からの要望をまとめたものです。岡村市長からは「しっかりと受け止めさせていただきます」とのお話をいただきました。



岡村市長に鷹羽会長から要望書を提出
市長室にて

市議会親和クラブ 令和8年度予算要望

Facebook
Instagram

市政・地域の情報、日頃の活動を発信中
お友だち登録をお願いします

皆さまからのご要望には丁寧に対応いたします!

私の政治活動のモットーは、市民の皆さんにとって、最も近い議員であることです。そうした思いを實踐するために、この「ふじもと宗久政治活動新聞」は毎回、私自身の手で一軒一軒皆さまのお宅に心を込めてお届けしています。

何かお気づきの点がございましたら遠慮なくお申し出ください。

- ### 親和クラブも後押しする施策
- ☆大府警察署新設
 - ☆地域公共交通の利便性向上
 - ☆小中学校給食費無償化
 - ☆スケートボードパーク整備
 - ☆おもちゃ美術館開館
 - ☆フェアトレードタウン宣言
 - ☆オーガニックビレッジ
- ☆藤本宗久が実現したい施策
☆ブックスタート事業



「フェアトレード推進を支持する決議」を起立採決。フェアトレードについては「議会だより8月号」をご覧ください

大府市政の主なトピックス

「住みよき」評価で常に上位付けされる大府市。財政が豊かで健全であることが最たる要因ではありますが、市政のチェック機能である市議会が、安定して運営されていることも重要なポイントだと思います。「サステイナブル健康都市」の実現に向かって、今後の大府市の施策にもどうぞご期待ください。

この活動を応援します

まるっとレモネード 応援団おおぶ

小児がんの子どもやご家族を支援するための募金活動を行っているボランティア団体です。広報担当の安藤晃子さんは、娘の佐知さん(当時9歳)を白血病で亡くしました。全国で同じ境遇の子どもたちに寄り添いたいとの安藤さんの思いに賛同した大府の有志で構成されています。私の妻もその一人です。

市内様々なイベントでレモネードなどを販売し、その収益は支援金として大府から全国各地の団体に送られます。

9月に開催されたコリアでのイベントでは、来場した同僚議員を安藤さんに紹介させていただきました。

今後、レモネードスタンドを見かけたら、皆さまのご協力をお願いいたします。

ボトルには思いを込めた手作りのTシャツが被せてあります

防災特集

いざという時のために 巨大地震に備える



地域住民の方に防災情報を説明
(関係記事は左下)

災害は「いつか」ではなく「いつ起きてもおかしくない」時代です。南海トラフ巨大地震が発生すれば、甚大な被害が想定され、私たちのまちも例外ではありません。また、毎年のように豪雨による浸水や土砂災害の危険が各地で現実のものとなっています。だからこそ、今からの備えが命を守ります。本号では、市の災害想定と私たちにできる具体的な備えを取り上げました。私たち一人ひとりができる防災について一緒に考えてまいりましょう。

南海トラフ巨大地震の被害想定
(大府市 最大震度6強)

死者数	40人
家屋全壊棟数	900棟
家屋焼失棟数	300棟
避難者数	13,129人
上水道断水	80,000人
下水道支障	56,000人
停電	38,000軒
都市ガス停止	16,000戸
携帯電話停波基地	81%

※避難者数は在宅避難を含む

災害関連死への対策を

大規模災害の犠牲は、倒壊、火災など直接的な被害だけではなく、避難生活の中で体調を崩し、命を落とす「災害関連死」への対策も深刻な課題です。実際、過去の災害では犠牲者の中で関連死が大きな割合を占めた事例もありました。

これまで「避難＝避難所」という意識が強くありましたが、近年は、**自宅での在宅避難の方が関連死のリスクを下げる**という見解も示されています。慣れない避難所生活は、心身のストレスや感染

症、持病悪化などを引き起こす可能性が高いからです。一方で、自宅避難を選ぶには「安全性の確保」が前提となります。家屋の耐震性や防火対策を日頃から確認しておくことが大切です。



南海トラフ地震では、災害関連死による被害は最大で5.2万人(全国)と想定されています。
※内閣府の報告による

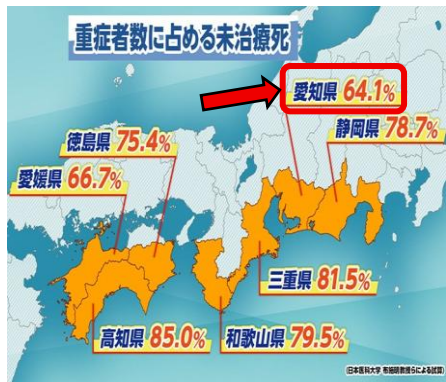
大府市の公的な備えはどうか

大府市では「大府市地域防災計画」を策定しており、この計画で予防、応急対策及び災害復旧対策を定めています。行政として防災に万全を期するとともに、市民の生命及び財産を保護し、社会秩序の維持並びに公共の福祉の確保を図ることとされています。

しかしながら、行政の備えにも限界があります。仮に、南海トラフ巨大地震のように災害が広域に及ぶ場合であれば、近隣市町村からの支援も期待できなくなります。大規模災害が発生した際の行政の備えについて、主なものをお示しいたします。参考としてください。

「未治療死」について

未治療死とは、災害でけがを負ったり持病が悪化したりしても、十分な医療を受けられないまま命を落としてしまうことです。ある試算によれば、愛知県では重傷者に占める未治療死の割合は**64.1%**(重症を負った人のおよそ3人に2人)が死に至るということです。けがをしない、持病を悪化させない対策が重要です。



日本医科大学 布施明教授らによる試算

避難所生活のリスク

避難所は命を守る「最後の砦」ですが、必ずしも快適な環境ではありません。大府市の指定避難所は**避難者による自主運営**が基本です。避難者は清掃や防災食の配給、支援物資の整理などの役割を分担しなければなりません。また体育館などに簡易な仕切りを設ける程度でプライバシーの確保も難しく、衛生面や精神面でのリスクがあります。自宅の安全性が確認できるなら、**在宅避難が第一の選択肢**です。「避難所へ行くか」「自宅で過ごせるか」、それぞれのケースを想定して準備を整えておきましょう。



避難所訓練の様子

「防災月見」の取組事例

私が所属する「安全環境推進クラブ(きぎはし)」が、**地域自主避難所訓練**を企画実施しました。これは、指定避難所と在宅避難の中間、つまりご近所同士で近隣の空き地を活用し災害時に避難所を頼らず自立するという試みです。当日は月見町三丁目地内の医療施設の駐車場をお借りし

地域自主避難所訓練をやってみました



テント式仮設トイレ

で、地元から十五名の住民の方が参加されました。内容としては、仮設トイレ、テント等を設置し、防災食の試食、そして防災講座を行いました。私からは、「防災は、自助、共助の間にある『近助(近所)』が大事であることをお話させていただきました。

- ① 指定避難所数
(小中学校・高校体育館、メディア体育館)
18か所
 - ② 指定避難所収容可能人数
6,870人
 - ③ 食料・飲料水備蓄量
非常食:**130,140食**
※想定避難者数×3日分
飲料水:**21,660リットル**
 - ④ 医薬品
医薬品の備蓄はありません
 - ⑤ 消防・救急体制
消防車 **12台**(消防署、共長出張所)
ポンプ車等 **7台**(消防団)
救急車 **5台**
- (参考)
大府市の人口は約93,000人、約41,000世帯



<私の見解>

机上の計算ですが、大府市では指定避難所には想定避難者数の52%しか収容できず、およそ6,300人の被災者が行き場を失うということになります。防災食は、想定避難者数(約1万3千人)の3日分が防災倉庫などに備蓄されています。つまり、発災直後には、多くの市民の方が水や食料の配給を受けることは困難であると考えられるのです。

また、医薬品についての備蓄はありません。病気を抱えておられる方には特に注意が必要です。発災後1週間をなんとか自活して生き延びることを皆さん個々に考えてみましょう。

私たちができる備え(医師への取材に基づく) NHK

- ▽家具の固定、耐震化などの対策
- ▽避難場所や避難ルートの確認
- ▽1週間分の水や食料などの備蓄
- ▽薬を多めに手元に置いておく
- ▽お薬手帳を持って避難する(手帳のコピーを財布などに入れておく)

NHK「災害列島～命を守る情報サイト」より